

# 天下分け目の関ヶ原

# 天下分け目の夏休み

生徒たちにはすでに「夏休みは受験の天王山」ということで話をしましたので、おうちの方にはもう一つ、天下分け目の関ヶ原ということでいきましょう。

天王山も関ヶ原も、ここで勝った方が天下を取るということで、おうちの方にもぜひこれだけは心がけて、ご協力いただきたいことを数点書きました。

親の協力あってこそその夏休みですので、ぜひよろしくお願いします。

## 1 生活のリズムの確保に真剣になろう。

夏休みは生活が乱れがちになります。

ついつい夜更かしをする、朝寝坊をする、友達のところへ出かけていく、などと予定していたことができないようになることがしばしばです。

まず大切なのは、親が妥協しないでほしいということです。特に朝のリズムだけでよいので、しっかり早起きさせて、決まった時間に朝食が食べられれば十分です。これまで学校があった場合と同様、生徒たちを朝起こして、ご飯を食べさせていたそれと同じ時間帯で生徒に朝ご飯を食べさせてください。むしろ、通常より早くてもかまいません。

朝きちんと朝食を食べることができれば、後は自分でしっかりと取り組むはずです。

学習時間の確保の方法として、朝型（早朝から始める）夜型（夜遅くまでする）などいろいろですが、とにかく夏休みのお昼の12時過ぎに学習をしようというのはなかなか難しいものです。（最近の子どもたちは贅沢で、エアコンのきいた部屋で、いつ勉強しようが同じ室温ということもありますが……）

基本的には、朝は朝ご飯を一緒に食べるという方針がおすすめです。

夜は時間を決めて勉強を始める（家族全員が夜の行動を開始する時間を決める）というのがおすすめです。

それから、1日は24時間。この配分としては7・8・9がおすすめ。7時間は学習、8時間は睡眠、9時間は生活です。7時間も学習！と思われるかも知れませんが、8時間眠って、9時間もご飯やお風呂やら読書やらテレビに使うのだから、残り7時間くらいいたいたことはありませんよ。8・8・8といたいところですが、そこまではいいませんので、7・8・9で1日の生活リズムをつくるようにしてほしいものです。

## 2 親子の対話を増やして進路について真剣に話し合おう。

夏休みは進路のことを親子で考えていく絶好の機会です。

わが子の希望や親の願いを十分に出し合う機会をつくっていくようにしましょう。

そのためには夕ご飯を一緒に食べるという方針がおすすめです。さっきからご飯の話ばかりで

すが、夕食の団らんというものは、子育てにとっては大切な時間です。テレビを見ながらご飯を食べて、子どもの話を聞いてやらないというおうちの人、お仕事で疲れているのはわかりますが、子どもたちもこれで結構苦労しているのですよ。

とにかく、来年の4月からは一人一人がちがった進路を歩み始めます。そのためにはおうちの方の理解や援助がとても大切です。わが子が何を考えているのか、何が望みなのか、そして親は何をを考えているのか、何が望みなのか、しっかりと話を出し合って、進路について真剣に話し合ってください。

### 3 一緒にできる仕事（家事）を見つけよう。

親とすれば、わが子をどうしても勉強部屋に追いやることが多くなります。そこで、逆に大切なのは、親子で一緒にやれることをぜひつくることです。

1日24時間、そんな勉強部屋にいるからといって、勉強をしっかりとしているとは限りませんよ。「早く勉強しなさい。」と部屋に追いやるよりも、今日はこれと決めて、一緒に何かやるのもいいものです。

例えば「日曜日の夕食は子どもとつくる。」とかとかいろいろあります。「茶わん洗いは子どもの仕事」などのように夏休みの家事を決めておくのもいいですね。

仕事（家事）だけではなく「一緒に映画に行く。」「一緒にスポーツ観戦に行く。」「親の仕事が休みの日に一度キャンプに行く。」などといった行事をつくるのもいいことです。

子どもにとっては気分転換になりますし、親子の語らいの場にもなります。ぜひ工夫してみてください。

### 4 進路の学習に親としても力を入れよう。

進路のことについては、意外と知らないことが多いのではないかと思います。

受験生が初めてではないという保護者の方でも、最近高校の変化にはめまぐるしいものがあります。

親としても、夏休みの中で、進路の学習に力を入れて取り組んでみてはどうですか。

例えば次のような用語はこれからもときどき出てきます。

「体験入学」「推薦入試」「推薦要件」「自己申告書」「全日制」「定時制」「通信制」「三者懇談」「専願」「志願変更」「傾斜配点」「普通科」「専門学科」「総合学科」「単位制高校」

こんな用語の意味をお子さんに尋ねるのも親子の会話を増やして一石二鳥です。

また、高校の名前、学科の種類、学科の内容などを調べてみるのも今後役に立ちます。

それから、直接高校まで行ってみるのもいいですね。通学方法や、通学時間などを実際に調べるもの夏休みならできることです。

ということで、長い夏休み、親子共々ちょっとしんどいかもしれないけれども、これもまた一つの飛び越えなければならぬハードルだと思って、がんばりましょう。

関ヶ原で勝利すれば、まもなく天下はこちらのもの。

(参考図書「わが子の受験と進路 応援カレンダー12カ月」松本幸夫, 民衆社)